



1. 石内都 1974.chihiro #1 2019年 ©Ishiuchi Miyako

# 石内 都 展

## 都とちひろ

ふたりの女の物語

2019年11月1日(金)～2020年1月31日(金)

主催：ちひろ美術館 特別協賛：JAKUETS

協賛：小野谷機工株式会社 SHI/EIDO 株式会社 ニコン

株式会社 ニコン イメージング ジャパン

協力：The Third Gallery Aya、株式会社求龍堂 後援：絵本学会、(公社) 全国学校図書館協議会、(一社) 日本国際児童図書評議会、日本児童図書出版協会、(公社) 日本図書館協会、杉並区教育委員会、西東京市教育委員会、練馬区

ドライバーとして生きた「藤倉都」。

画家として生きた「いわさきちひろ」。

写真家・石内都がふたりの女の物語をつむぐ。

写真を始めた28歳のときから、母の旧姓名を作家名として名乗ってきた写真家・石内都。石内は、絵本画家として知られる「いわさきちひろ」の人生を知ることについて、2歳しか年の変わらない自分の母「藤倉都」との重なりに気づきました。

本展では、今年、石内が新たにいわさきちひろの遺品を撮り下ろしたシリーズ「1974.chihiro」29点を初公開するとともに、自身の母親の身体や遺品を撮影したシリーズ「Mother's」も展示します。藤倉都といわさきちひろの生前の写真や資料も展示し、石内の視点を通して、同じ時代の空気を吸って生きたふたりの女の物語が語られます。

### 石内 都 (写真家) Ishiuchi Miyako

1947年群馬県桐生市に生まれ、横須賀市で育つ。1979年「Apartment」で第4回木村伊兵衛写真賞受賞。2005年、母の遺品を撮影した「Mother's」で第51回ヴェネツィア・ビエンナーレ日本館代表作家に選出される。2008年に写真集『ひろしま』を発表、被爆者の遺品の撮影は現在も続く。2013年に紫綬褒章を受章、2014年にハッセルブラッド国際写真賞を受賞。2017年に横浜美術館で大規模な個展「肌理と写真」を開催。2018年には安曇野ちひろ美術館で、いわさきちひろとの二人展「ひろしま」を開催した。

### 藤倉 都 (1916～2000) \*写真家・石内都の母 Fujikura Miyako

1916年群馬県阿左美(現・みどり市)の農家の5女として生まれる(旧姓名・石内都)。1934年、18歳で自動車免許(大型2種)を取得。タクシー、バス、トラック、ジープなどあらゆる車を運転する。1947年に藤倉清と結婚、同年に長女を、1949年に長男を出産。1975年、写真を始めた長女が、旧姓名の「石内都」を作家名として名乗る。2000年、肝臓ガンのため死去。享年84。

### いわさきちひろ (1918～1974) Iwasaki Chihiro

1918年福井県武生(現・越前市)に生まれ、東京で育つ(旧姓名・岩崎知弘)。3人姉妹の長女。1936年東京府立第六高等女学校卒業。絵は岡田三郎助、中谷泰、丸木俊に師事。1950年に松本善明と結婚、同年、紙芝居「お母さんの話」を出版、文部大臣賞受賞。翌年、長男を出産。絵本などの子どもの本を中心に、新聞、雑誌、カレンダーなどさまざまな印刷メディアに絵を描いた。1974年、肝臓ガンのため死去。享年55。



## 1 石内都「1974.chihiro」 新作29点

2018年のいわさきちひろ生誕100年プロジェクト「Life展」では、ちひろの絵と石内都の写真がコラボレートする展覧会「ひろしま」が行われました。これをきっかけに、石内はそれまで自分とは縁がないと思っていたちひろの人生を深く知るようになります。

2019年1月、石内は雪の降る安曇野で、ワンピースや帽子、手袋、口紅など、ちひろが身につけた遺品を撮影しました。ちひろが55歳で亡くなってから45年を経た今、石内都の写真を通して、絵本画家として知られるちひろの、ひとりの女としての姿が映し出されます。



2. 石内都 1974.chihiro #9 2019年 ©Ishiuchi Miyako



3. 石内都 1974.chihiro #2 2019年 ©Ishiuchi Miyako

彼女の残した資料やエッセイを読んでもみると、ちひろさんの生き方は、私が抱いていた彼女の絵に対するイメージとは違っていました。今ほど女性が自由ではなかった時代に、手に職を持って真剣に生きたひとりの女。それは“かわいい”というよりも“かっこいい”と呼ぶにふさわしく、そんな彼女の生き様に対して、私の内側が共鳴するのを感じました。また偶然にも、ちひろさんと私の母は二歳しか年が違わないということも発見でした。大正生まれの母は、家族の反対を押し切って十八歳で車の免許を取り、女だてらに運転手になった、やはり働く女性です。後に七つ年下の父と結婚し、私が生まれたわけですが、ちひろさんも善明さんより七つ半年上で、それらの重なりにも親近感を覚えました。「そうか、ちひろさんと母は同じ時代の空気を吸って生きたんだ」そう思ってから、私のなかの彼女の存在がよりいきいきとしました。

石内都のこぼれ『いわさきちひろ生誕100年 Life Chihiro Iwasaki 100』より抜粋 2018年



4. 石内都 1974.chihiro #18 2019年 ©Ishiuchi Miyako



5. 石内都 1974.chihiro #19 2019年 ©Ishiuchi Miyako



## 2 石内都「Mother's」

27点



6. 石内都 Mother's #5 2001年 群馬県立近代美術館寄託作品  
©Ishiuchi Miyako

2000年に母・藤倉都が84歳で亡くなり、遺されたシミーズやガードルなどの肌身に近い品々を撮り始めたのが、石内都が遺品の写真を撮るようになったきっかけでした。これらの遺品の写真に、亡くなる直前の母の身体を撮影した写真を加えたシリーズ「Mother's」(2000年～2005年)は、第51回ヴェネツィア・ビエンナーレで展示され、世界的な注目を集めました。母に対する個人的な思いから生まれた写真は、今や作品として自立し、母もひとりの女だという普遍的な事実を語っています。



7. 石内都 Mother's #52 2003年 東京都写真美術館蔵  
©Ishiuchi Miyako



8. 石内都 Mother's #3 2000年  
東京都写真美術館蔵 ©Ishiuchi Miyako

## 3 いわさきちひろのデッサン

遺された約9550点のちひろの遺作のなかから、人物デッサンを中心に展示します。淡くにじんだ水彩画で知られるちひろですが、彼女の絵の礎にはデッサンの修練がありました。折々のデッサンからは、日々の暮らしのなかでも自分や、家族も含めた周りの人々の姿を観察し、常に表現者であろうと手を動かしていたちひろの姿がうかがえます。



9. いわさきちひろ 自画像(30歳頃)  
1940年代後半 ちひろ美術館蔵



10. いわさきちひろ メーデー風景 1950年  
ちひろ美術館蔵

## 4 ふたりの女の物語 藤倉都(石内都の母)といわさきちひろ



11. 藤倉都

1916年生まれの「藤倉都」。1918年生まれの「いわさきちひろ」。石内都は、2歳しか年の変わらないふたりの女性に、驚くほど共通点が多いことを発見します。戦時中に旧満州(中国東北部)に渡った経験を持ち、最初の結婚をしていること。女性が今ほど自由ではなかった時代に、手に職を持って働いたこと。年下の夫と再婚し、経済的に家族の生活を支えたこと——。ちひろを知ることは、石内にとって母を知ることでありました。ここではふたりの女の生前の写真や資料を展示し、同じ時代を生きたふたりの人生に光をあてます。



12. いわさきちひろ 1960年(41歳)



2019年11月1日(金)～2020年1月31日(金) 会期中のイベント

## 展覧会関連イベント

### ●対談 石内都 × 上野千鶴子

「ふたりの女の物語 都とちひろ」

石内都(写真家)と上野千鶴子(社会学者)が、石内の母親「藤倉都」と「いわさきちひろ」の生き方を通して、女が働くこと、生きることについて語り合います。

11/30(土) 15:00～16:30

定員:60名 参加費:1000円

\*要申し込み 10/30(水) 受付開始



石内都  
@Maki Ishii

上野千鶴子  
撮影:菅野勝男

### ●松本猛ギャラリートーク

11/10(日)15:30～

講師:松本猛(ちひろ美術館常任顧問) \*参加自由、無料

### ●ギャラリートーク

毎月第1・3土曜日 14:00～ \*参加自由、無料

## その他のイベント

### ●感謝デー 12/15(日)

ちひろ 101歳の誕生日/入館無料

### ●新成人特典

2020.1/2(木)～1/13(月・祝)

新成人の方は入館無料

### ●えほんのじかん

協力:ねりま子どもと本ネットワーク

毎月第2・4土曜日 11:00～ \*参加自由、無料



## 文化庁 平成31年度地域と共働した博物館創造活動支援事業

### ●あかちゃん/子どものための鑑賞会

11/4(月・祝)・2020.1/13(月・祝)

11:00～(0～2歳児)/14:00～(3～6歳児)

講師:富田めぐみ(NPO法人赤ちゃんからのアートフレンドシップ協会代表)

対象:乳幼児と保護者

定員:各10組20名

参加費:無料

\*要申し込み

(各1ヶ月前より受付開始)



### ●出張「子育てのひろば」

11/8(金)・2020.1/17(金)10:00～15:00

対象:乳幼児と保護者 参加自由、無料

協力:特定非営利活動法人 手をつなご

### ●わらべうたあそび

12/7(土) 11:00～11:40

講師:服部雅子(西東京市もぐらの会代表、はとさん文庫主宰)

対象:0～2歳児と保護者

定員:15組30名 参加費:無料

\*要申し込み 11/7(木) 受付開始

### ●ちひろの水彩技法ワークショップ「にじみのぼち袋づくり」

2020.1/2(木)～1/3(金)10:30～15:00

対象:5歳以上 定員:各日80名

参加費:無料 \*当日先着順



\*詳細は、ちひろ美術館ホームページでご案内します。

\*イベント参加費のほか、別途入館料が必要です(高校生以下は入館料無料)。

\*定員、参加費が記載されていないものは、参加自由、無料です。

\*イベント名・日時・内容等は、予告なく変更する場合がございます。

●展覧会名…石内 都 展 都とちひろ ふたりの女の物語

●展示会期…2019年11月1日(金)～2020年1月31日(金)

●開館時間…10:00～17:00(入館は閉館の30分前まで)

●休館日…毎月曜日(祝休日は開館、翌平日休館) / 年末年始(12月28日～1月1日) ※1月2日から開館 / 冬期休館(2月1日～2月29日)

●入館料…大人800円 / 高校生以下無料

団体(有料入館者10名以上)、65歳以上の方、学生証をご提示の方、公式WEBサイト割引特典提示の方は700円

/ 障害者手帳ご提示の方は400円、介添えの方は1名まで無料 / 視覚障害のある方は無料 / 年間パスポート2500円

●交通…西武新宿線上井草駅下車徒歩7分

◎JR中央線荻窪駅より西武バス石神井公園駅行き(荻14)上井草駅入口下車徒歩5分

◎西武池袋線石神井公園駅より西武バス荻窪駅行き(荻14)上井草駅入口下車徒歩5分

◎駐車場あり(乗用車3台・身障者用1台)

## 展覧会関連書籍

『都とちひろ ふたりの女の物語』

著者:石内都

編集:ちひろ美術館+求龍堂 発行元:株式会社求龍堂

ブックデザイン:加藤勝也 印刷所:株式会社山田写真製版所

B6変型 発行予定日:11月上旬 予価:本体価格2,500円+税



公益財団法人いわさきちひろ記念事業団

ちひろ美術館・東京

〒177-0042 東京都練馬区下石神井4-7-2

chihiro.jp



お問い合わせは、広報担当:入口・北村まで Email: publicity@chihiro.or.jp

テレホンガイド 03-3995-3001 TEL. 03-3995-0772(業務用) FAX 03-3995-0680